

平成30年2月8日(木) 公開授業Ⅰ

平成30年2月9日(金) 公開授業Ⅲ

会場 2階-③ (S 4年虹の輪)

授業者 新潟大学教育学部附属新潟小学校

教諭 梅津 祐介

## 1 単元名 まちづくりイノベーション — アートでまちの魅力を高めよう —

## 2 本単元の価値

探究課題及び学習事項は以下のとおりである。

<p>【探究課題】 人々のつながりの創出を目指すまちづくり</p> <p>【対象】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人：肥田野 正明さん(まちごと美術館代表) 作家のみなさん</li> <li>・もの：アート作品</li> <li>・こと：まちごと美術館「ことごと」</li> </ul>	<p>【学習事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まちの魅力を高める活動として、「まちごと美術館」を行う。</li> <li>・まちの魅力について考え、新たな意味を見いだす。</li> <li>・これまでの単元を振り返り、まちの魅力を高める活動について考える。</li> </ul>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

これまでの学習で子どもは、「まちの魅力をもっと高めたい」という課題意識をもって、下町地域の魅力を発信するまち歩きガイドを実践したり(単元名「新潟市,再発見」)、北区松浜地域の活性化プロジェクトに参加したりしてきた(単元名「松浜Rプロジェクト in 附属小」)。これらの学習を通して子どもは、まちの魅力とは、まちの個性や人がたくさん集まる場所と考えている。このような子どもが、人と人とのつながりもまちの魅力の一つであり、多種多様な人とつながることに価値を見いだすことを期待する。

前単元で松浜地域の活性化について考えた子どもは、まちづくりにおけるアートの可能性に着目した。新潟市内にもアートを用いたまちづくりの事例がいくつかある。本単元で学習の対象とするのは、障がいのある人たちのアート作品(絵画や書)を商業施設や公共施設などに展示する活動「まちごと美術館」である。この活動には、まちなかに作品を展示することで、障がいのある人やその家族がまちに出掛けるきっかけとなり、多くの出会いが生まれるようにという願いが込められている。まちごと美術館代表の肥田野正明さん、アート作品を生み出す作家の皆さん、この活動にかかわる人々と交流することは、子どもが、「人と人とがつながる」まちづくりについて考える契機となる。ここに、まちごと美術館を対象として単元を構成することの価値がある。

本単元の主たる学習事項は、「まちの魅力を高めるために、アートで何ができるか」ということを考えることである。子どもはこの問いを探究する中で、理想とするまちの姿を描き、アートが果たす役割やその可能性を考え、「アートの力」についての理解を深めていく。

また、まちづくりについて考える際、自分たちだけを主体として考えるのではなく、多種多様な人の存在を意識することが重要である。具体的には、社会的な立場が弱い人(高齢者や障がいのある人など)に寄り添うことである。障がいのある人のアート作品を扱う意味はここにある。子どもが障がいのある人のアート作品やその作家の皆さんとかかわることは、障がいのある人に対する尊敬の概念を広げるとともに、共生的なまちのあり方を目指す視点を働かせることができるだろう。

子どもがもつ根本的な課題意識は、「まちの魅力を高めたい」という思いである。本単元は、その思いの実現をアートに求めている。子どもは、「なぜアートか」「なぜ障がいのある人の作品がよいのか」「自分たちには何ができるか」ということを考えながら探究を進めていく。その過程で「まちの魅力」の新たな意味を見だし、子どもなりの言葉で説明できることが、まちづくりの一つのあり方を導いた子どもの姿となる。

## 3 目指す姿

## 学びの道筋を描き、思いを実現させていく子ども

具体的には、まちごと美術館の活動内容に対する共感の気持ちや、アート作品に対する感動を基にしてよりよいまちの具体像を描き、その実現に向けた方法を考え、主体的に活動する姿。

## 4 働かせる「見方・考え方」

○広範な事象を多様な角度から俯瞰して考えること

- ・社会の中では人と人とが互いにかかわり合っているという相互関係に着目すること

(以下、探究的な「見方・考え方」)

○各教科等の特質に着目すること

- ・造形的な要素に着目すること(造形的な「見方・考え方」)
- ・言葉の意味、働き、使い方等に着目すること(言葉による「見方・考え方」)

## 5 育成する資質・能力 別紙、「指導計画」参照

## 6 指導の構想

アートを用いたまちづくりの可能性に着目した子どもは、まちごと美術館代表の肥田野正明さんの話を聞いたり、展示されている作品を鑑賞したりした。また、福祉施設で制作風景を見学したり、アート活動に対する作家さんの気持ちを聞いたりもした。子どもは作品の素晴らしさに感動するとともに、まちごと美術館の趣旨に共感し、「アートでまちの魅力を高めたい。自分たちで何ができるか」という思いを高めた。この思いをかたちにするために、子どもは肥田野さんと交渉して作品をお借りし、自分たちの手によるまちごと美術館を行ったのである。



子どもは、まちごと美術館を実践できたことに大きな喜びを感じている。しかし、この段階で、子どもがとらえているまちの魅力とは、まちの自慢やまちの個性、アート作品をまちなかに展示するという行為のことであり、人とのつながりにはそれほど目が向いていない。このような子どもに次のように働き掛ける。

### 働き掛け1-①（1日目）

実践したまちごと美術館で「まちの個性」「まちの自慢」等のまちの魅力が高まったと説明できるか問う。

「まちの魅力」の意味をとらえ直す必要性に気付かせるための働き掛けである。まちごと美術館を行ったことに満足している子どもに、単元前や単元の学習を進める中で子どもがとらえたまちの魅力「まちの自慢」「まちの個性」「アート作品を展示するという行為」等を提示し、活動したことによってこれらのまちの魅力が高まったと説明できるか問う。子どもは、自分たちの手でまちごと美術館を実践したことに手応えを感じている。しかし、そのことを提示された言葉で説明することが難しいと感じた子どもは、まちごと美術館によって高まる魅力は別の何かではないかと考え始める（①知識・技能、②思考力・判断力・表現力）。

### 働き掛け1-②（1日目）

自分たちの手でまちごと美術館を実践して、まちの魅力が高まったと思ったのはどんなところか問う。

まちごと美術館の活動を総括させるための働き掛けである。まちごと美術館によってまちの魅力が高まったと思ったのはどんなところか問われた子どもは、タブレット端末で撮影した写真を見たり、グループで話し合ったりしながら（ツール活用能力、協働性）、まちゆく人に「この作品はすごいね」「どの作品も家にも飾ってみたいと思う」というように作品の素晴らしさに感動してもらえたこと、作家さんの存在を知ってもらえたことなど、自分たちが伝えたいことが伝わったことを述べるだろう。さらに、まちごと美術館を実践したことによって分かったことや感じたことについても子どもに述べさせる。探究的な「見方・考え方」を引き出すのである。子どもは、まちゆく人に自分たちのがんばりを認めてもらえたこと、そこで会話のやりとりが生まれたことなど、探究的な「見方・考え方」を働かせて、このような「人と人とのつながり」が生まれたこともまちの魅力の一つなのではないかと考え始める（①知識・技能、②思考力・判断力・表現力）。

### 働き掛け2（1日目）

肥田野さんから、まちの魅力について話を聞く場を設定する。

「まちの魅力」の新たな意味を見いださせるための働き掛けである。「人と人とのつながり」がまちの魅力ではないかと考え始めた子どもに、肥田野さんの話を聞く場を設定する。肥田野さんからは、まちの魅力の一つは「人と人とのつながり」が生まれることであり、まちごと美術館がその役割を果たすことを目指しているという話をしてもらう。これによって、探究的な「見方・考え方」を明確化させるのである。

そして、肥田野さんからは、これまでの単元で対象としたまちづくりの活動（野内隆裕さんによる下町のまち歩き、松浜Rプロジェクトによる地域活性化の取組）についても、人と人とのつながりという視点で振り返ってほしいという話をしてもらう。これまでの単元においても子どもは、「まちの魅力を高めたい」という思いをもって活動してきた。子どもは探究的な「見方・考え方」を働かせて、「私たちがかわかってきたまちづくりの活動でも、人と人とのつながりが生まれていたのだろうか」と、これまでの単元で対象としたまちづくりに改めて目を向け始めるのである（①知識・技能、②思考力・判断力・表現力）。

### 働き掛け3-①（2日目）

これまでの単元で対象としたまちづくりでは、「人と人とのつながり」が生まれていたのか問う。

本単元と、これまでの単元の関連性を図らせるための働き掛けである。下町のまち歩きを行った「新潟市、再発見」は「魅力を見つける」活動、松浜地区の活性化の取組について学習した「松浜Rプロジェクト in 附属小」は「魅力を生かす」活動、そして、まちごと美術館は「魅力をつくる」活動であるというのが子どもの認識である。このような認識をもった子どもに、これまでかかわったまちづくりの活動では「人と人とのつながり」が生まれていたのか問う。これによって、それぞれ魅力の高め方が違うと考えている活動を一つの視点でとらえさせるのである。探究的な「見方・考え方」を働かせた子どもは、まちづくりの活動であれば、同じように人と人とのつながりがあるはずだと考え、その具体的に目を向け始める（①知識・技能、②思考力・判断力・表現力）。



「魅力を生かす」活動、そして、まちごと美術館は「魅力をつくる」活動であるというのが子どもの認識である。このような認識をもった子どもに、これまでかかわったまちづくりの活動では「人と人とのつながり」が生まれていたのか問う。これによって、それぞれ魅力の高め方が違うと考えている活動を一つの視点でとらえさせるのである。探究的な「見方・考え方」を働かせた子どもは、まちづくりの活動であれば、同じように人と人とのつながりがあるはずだと考え、その具体的に目を向け始める（①知識・技能、②思考力・判断力・表現力）。

### 働き掛け3-②（2日目）

これまでの単元で対象としたまちづくりで生まれた「人と人とのつながり」とは、どのようなものだったのか問う。

魅力が高まったまちの姿を確かにさせるための働き掛けである。過去の単元で対象としたまちづくりで生まれた「人と人とのつながり」とはどのようなものだったか問われた子どもは、探究的な「見方・考え方」を働かせて、これまでの学習の中に新たな価値を見出す（①知識・技能、②思考力・判断力・表現力）。魅力が高まった具体的なまちの姿を確かにするのである。

特に、野内隆裕さんが行っているまち歩きの活動は、社会的に価値あるものと広く認められている（2013、2014年グッドデザイン賞、第2回ニイガタ安吾賞）。野内さんの活動の中に人と人とのつながりを見出すことで、自分たちの手によるまちごと美術館の活動が、魅力を高める上で貢献できたのか考え始めるのである（①知識・技能、②思考力・判断力・表現力）。

### 働き掛け4（2日目）

実践したまちごと美術館でも「人と人とのつながり」が生まれていたのか問う。

新たにまちごと美術館の活動を創造させるための働き掛けである。自分たちの活動が、魅力を高めることに貢献できたのか考えている子どもに、実践したまちごと美術館でも「人と人とのつながり」が生まれていたのか問う。これによって子どもは、「人と人とのつながり」という視点で新たな活動を創造することへの意欲を高める（③態度）。

人と人とのつながりが生まれるように伝え方を工夫したいと考える子どももいれば、まちごと美術館を行う適切な場所について考える子どももいるだろう（②思考力・判断力・表現力）。「どの場所がよいのか」と考えている子どもの中には、まち歩きコースの終着点でもある野内さんが経営するカフェに注目するかもしれない。

このように、自分の思いを実現させようと主体的に活動する姿が、本単元で目指す**学びの道筋を描き、思いを実現させていく子ども**の姿である。

## 7 指導計画 全25時間

別紙「指導計画」参照

## 8 本時の構想<第2日目>（45分授業）

### (1) 本時のねらい（本時 18/25時間目）

見いだしたまちの魅力に基づきこれまでの単元を振り返ることを通して、「人と人とのつながり」の具体を明らかにし、アートを用いたまちの魅力を高める活動を考える。

### (2) 展開

学習活動と子どもの姿 ☆資質・能力	教師の働き掛け
<p>1 これまでの単元の中に「人と人とのつながり」を見だし、魅力が高まったまちの姿を確かにする。 ☆総合①② ・これまでの単元もそうだったはず。</p>	<p>○発問「野内さんのまち歩き、松浜Rプロジェクトの活動では『人と人とのつながり』が生まれていたでしょうか」 【働き掛け3-①】</p>

- ・野内さんのまち歩きも、下町を知らない人にそのよさを知ってもらうためにやっていた。これはつながりだよね。
- ・松浜Rプロジェクトも、リノベーションでまちの外の人とつながろうとしていた。
- ・私たちは「地域の歴史を伝えてほしい」って、野内さんからバトンを受け取ったじゃん。私たちと野内さんとのつながりだよね。
- ・野内さんは、日和山にカフェをつくった。そこにきた人が会話ができるようにしたんだね。
- ・松浜の場合は、地域の中の人と外の人と一緒にになってまちについて考えるアイデアカギを開いていたよね。

**2 2回目のまちごと美術館への意欲を高める。** ☆総合②③

- ・自信をもってつながりが生まれたとは言えない。
- ・もっと人と人とのつながりをつくることができるはず。
- ・人とのつながりが生まれるような仕組みを考えないといけないね。
- ・でも、具体的にどんなことをすればいいのだろうか。

**3 これまでの単元と関連させたり、本単元の活動を振り返ったりしながら、人とのつながりを生む活動を考える。** ☆総合①②③ ☆協働性

- ・野内さんのカフェで展示ってどう？
- ・まち歩きをして、最後にカフェで作品を見てもらう。いろいろなお客さんとつながることができる。
- ・そのガイドを私たちがやれたら最高だね。まちごと美術館とまち歩きのコラボだ。
- ・松浜地域の「こらぼや」でも同じことができそう。
- ・まちにアートを並べて、スタンプラリーみたいなのができるだろうか。野内さんも夏のお祭りでやっていたよね。
- ・中央区役所で2回目のまちごと美術館を行えばいいと思う。でも、ただ伝えるだけじゃなくて、伝えることが連鎖することを意識して活動しなければならない。

**4 本時の学習を振り返る。** ☆総合①②③

- ・「人と人とのつながり」という視点でこれまでの単元を振り返ると、新しい発見があった。
- ・3つの単元をつなげて考えると、「人と人とのつながり」がどういうことなのかよく分かった。
- ・まちづくりって、いろいろなまちの魅力を発信すると思うけど、結局は人とのつながりを生むものなんだね。
- ・自分たちの活動がまちづくりになっているかと思うと、すごくわくわくする。
- ・次のまちごと美術館の参考になるように、他の地域のまちづくりについて調べてみるといいかもしれない。

- ※ 肥田野さんが取材された朝日新聞朝刊(2018.1.22)を提示する。
- ※ これまでの単元「新潟市、再発見」「松浜Rプロジェクト」の活動の様子を写真で掲示する。

○発問「二つの活動で生まれた人と人とのつながりとは、具体的にどのようなものでしたか」

【働き掛け3-②】

○発問「みなさんのまちごと美術館でも『人と人とのつながり』は、生まれていたのでしょか」 【働き掛け4】

○学習課題を設定する。

まちごと美術館で「人と人とのつながり」がもっと生まれるようにするためには、どのような活動をすればよいか。

○発問「人と人とのつながりをもっと生む活動とは、どのようなものでしょうか」

※ グループで話し合われた意見を模造紙に記録させる。

※ 模造紙に書かれた内容について、その意味を意図を問う。

※ グループで出された意見を発表させる。

○指示「振り返りシートを記入しましょう」

※ 振り返りシートは、「虹の輪で大切にしたい七つの視点」「今日のキーワード」「まとめ」で構成されている。

**(3) 評価**

これまでの単元を関連させ、「人と人とのつながり」を視点にして、自分がまちを見てきた見方について考えることができたか。(☆発言 ☆振り返りシート)